I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 69
Blue Mitchell【ブルー・ミッチェル】
～リーダー & サイドマンとして大活躍した名トランペッター～

Photo : Blue Mitchell "Stablemates" (Candid)

Profile

1930 年 3 月 13 日、米国フロリダ州マイアミ生まれ。本名は Richard Allen Mitchell。ハイスクール時代にトランペットを始める。“ ブルー ” というニックネームもこの頃に付けられた。ハイスクールを卒業後、ポール・ウィリアムズやアール・ボスティック等のリズム・アンド・ブルースのバンドで活動。58 年にキャノンボール・アダレイに見出され、キャノンボールのリバーサイド・レコードでのレコーディングに参加。その後は 60 年にジュニア・クックやジーン・テイラー、ロイ・ブルックスと共に、ホレス・シルヴァー・クィンテットに加入。64 年にジュニア・クックとジーン・テイラーにチック・コリア、アル・フォスターを加えた自身のクィンテットを結成。ブルーノート・レコードで多くの作品をレコーディングする。69 年に自身のクインテットを解散。その後は 71 年までレイ・チャールズのツアーに同行。71 年から 73 年までジョン・メイオールと共演し、アルバム『ジャズ・ブルース・フュージョン』のレコーディングに参加。70 年代にはソウル、ロック、ファンク等、ジャズ・ファンク路線でレコーディングやライヴに参加。ルイ・ベルソン、ビル・ベリー、トニー・ベネット、等と共演。また、ルー・ドナルドソン、グラント・グリーン、フィリー・ジョー・ジョーンズ、ジャッキー・マクリーン、ハンク・モブレー、デクスター・ゴードン等のアルバムに参加。また、晩年までハロルド・ランド・クィンテットで演奏を続けた。伸びのあるクリアな音色で人気を博し、バンド・リーダーやサイドマンとして、リバーサイドやブルー・ノート、メインストリーム等のレーベルに多くの名演・名盤を残した。1979 年 5 月 21 日、癌のためカリフォルニア州ロサンジェルスにて息を引き取る。享年 49 歳。

BM's Great Album

リバーサイドに吹き込んだ『アウト・オブ・ザ・ブルー』『ブルー・ソウル』『ブルーズ・ムーズ』等の人気アルバム以外にも、晩年まで数多くの名盤＆名演を残している。

ジャケットも粋なブルー・ミッチェルの歌心溢れるプレイが光る快作

ヴァイタル・ブルー
ブルー・ミッチェル

（ウルトラ・ヴァイヴ／ SOLID Records : CDSOL-45236）

ブルー・ミッチェル (tp)、ジョー・ヘンダーソン (ts,fl)、アーニー・ワッツ (ts)、ウォルター・ビショップ Jr. (p)、他

1. ブーティ・シェイキン 2. ヴァイタル・ブルー 3. アンシーン・サウンズ 4. ハーマンズ・ヘルメット 5. アイ・ラヴ・ユー 6. 二人の誓い

ブルー・ミッチェルのジャズ・ファンクが堪能できる70年代の名作

グラフティ・ブルース
ブルー・ミッチェル

（ウルトラ・ヴァイヴ／ SOLID Records : CDSOL-45258）

ブルー・ミッチェル (tp)、ハーマン・ライリー (ts)、ウォルター・ビショップ Jr.、ジョー・サンプル (p)、ドン・ベイリー (ha)、他

1. グラフィティ・ブルース 2. イヤー・ヤ・ライト 3. エクスプレス 4. アッソ・カム 5. ドラド

ブルー・ミッチェルがメインストリームに残した最後の作品

メニー・シェイズ・オブ・ブルー
ブルー・ミッチェル

（ウルトラ・ヴァイヴ／ SOLID Records : CDSOL-45266）

ブルー・ミッチェル、ジョン・ファディス (tp)、ジョー・ベック、ジョン・トロペイ (g)、マイケル・ムーア (b)、他

1. ウェア・イッツ・アット 2. ハーモニー・オブ・ジ・アンダーグラウンド 3. ファンキー・ウォーク 4. ブルー・ファンク（他、全 8 曲）

ジャケットも渋くてカッコいいブルー・ミッチェルの1971 年録音作品。テナーとフルートを披露するジョー・ヘンダーソン、アーニー・ワッツ、ウォルター・ビショップ Jr. の好演も聴きどころ。“ ヴァイタル ” =「活力に満ちた」「力強い」という意味合いのタイトル通り、ブルー・ミッチェルの “ ヴァイタル ” を感じるプレイとサウンドは圧巻。「ブーティ・シェイキン」「ヴァイタル・ブルー」「ハーマンズ・ヘルメット」等、6 曲を収録。

冒頭のタイトルナンバー「グラフィティ・ブルース」からとても熱い。ドン・ベイリーのブルージーなハーモニカに、ブルー・ミッチェルのファンキーなトランペットが炸裂。ジョー・サンプル作曲の「アッソ・カム」はお気に入りの 1 曲。ラストの 25 分に渡るジャズ・ファンク・ナンバー「ドラド」も必聴。作品全体にブルー・ミッチェルのトランペットの魅力が全開。フレディ・ロビンソンのギターやジョー・サンプルのピアノの存在感も素晴らしい。

ジャズ・ファンク路線で人気を博した 1970 年代のブルー・ミッチェルが看板アーティストとして活躍したメインストリームに残した最後の作品。ジョン・ファディス、ジョー・ベック、ジョン・トロペイ、マイケル・ムーア等、腕利きのミュージシャンを従えて、ブルー・ミッチェルがファンキーに躍動する。アレンジは後にマンハッタン・ジャズ・クインテット～マンハッタン・ジャズ・オーケストラを結成するデヴィッド・マシューズが手掛けている。1974 年作品。

日野皓正との絆

日本が誇るジャズ・トランペッター日野皓正は 1967 年に初リーダーアルバム『アローン・アローン・アンド・アローン』を発表しているが、先立つこと数年前、日野皓正のライヴでタイトル曲の演奏を聴いたブルー・ミッチェルが感銘を受け、譜面を譲り受けた上で自身のステージで演奏し、1965 年録音のアルバム『ダウン・ウィズ・イット』に同曲を収録している。また、日野皓正はブルー・ミッチェルが亡くなった 1979 年に NY 録音したアルバム『シティ・コネクション』のラストで「ブルー・スマイルズ（ブルー・ミッチェルに捧ぐ）」を演奏している。

カラフル・ミッチェル

ブルー・ミッチェルの本名は Richard Allen Mitchell で、“ ブルー ” はニックネームから付けられている。ミッチェルと言えば、ベーシストのレッド・ミッチェルも有名だが、レッドの本名は Keith Moore Mitchell で、色の部分はニックネームから付けた形になっている。もう 1 人忘れてはならないのが、レッド・ミッチェルの実弟で、ベーシスト兼テレビ脚本家としても活躍したホワイティ・ミッチェルだ。ホワイティの本名は Gordon Mitchell で、こちらも色の部分はニックネームから付けた形になっている。ジャズ・シーンには青・赤・白のカラフルなミッチェルが存在する。

Jazz Standards（ジャズ名曲列伝） Vol.42

~ Summer Soft【サマー・ソフト】~

この曲はスティーヴィー・ワンダーが作詞・作曲を手掛けた曲で、1976 年に発表されたスティーヴィーの 18 枚目のオリジナル・アルバム『キー・オブ・ライフ』に収録された。邦題は「今はひとりぼっち」。アルバムは全米チャート 14 週連続 1 位、グラミー賞の〈最優秀アルバム賞〉〈最優秀男性ポップ・ヴォーカル〉を受賞する等、大ヒットを記録。シングルカットこそされなかったが、ジャズ・ミュージシャンにもカヴァーされ、親しまれている。

★ この名曲が聴けるお薦めのアルバム

ブルー・ミッチェル『サマー・ソフト』
ナジー『プレイズ・ソングス・フロム・ザ・キー・オブ・ライフ』
クリスチャン・マクブライド『ア・ファミリー・アフェアー』
フォー・オブ・ア・カインド『フォー・オブ・ア・カインド II』
ジャジン・パーク『ア・デイ・イン・ザ・ライフ』